

ICTユニットの概要

- 「ICTユニット」は災害時に被災地へ搬入して迅速に通信ネットワークを応急復旧させることが可能な通信設備。
- 東日本大震災での教訓を踏まえて、総務省がNTT等に委託して研究開発を実施(H23~25年度)し、H26年11月に実用化。
- 被災地における必要な通信手段の確保及び支援のため、自治体等からの要請に応じて、貸し出しを実施。

<機器構成>

バッテリー(2本)
(本体、Wi-Fi用)



(容量: 24,000mAh)
(重量: 約650g)

ユニット本体
(IP電話用構内交換機、
情報処理サーバ)



(重量: 約500g)

**Wi-Fi アクセス
ポイント**

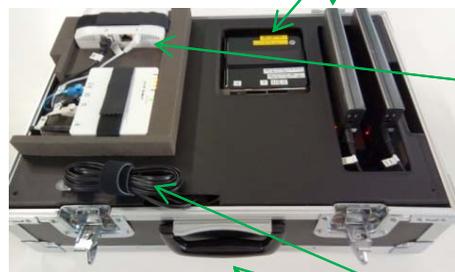


(重量: 約100g)

ゲートウェイ
(外線と接続用)



(重量: 約500g)

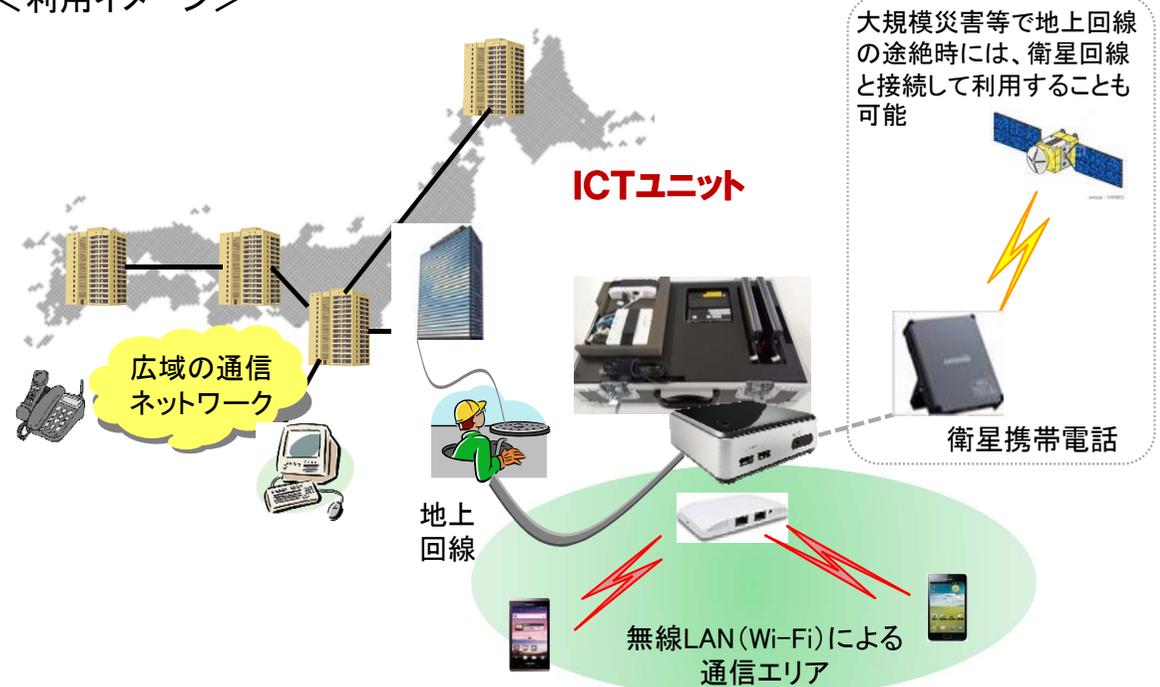


※専用ケースに格納

重量合計:
約7.5kg程度

その他(衛星携帯電話接続アダプタ、
HUBスイッチ、ケーブル、小物類等)

<利用イメージ>



【ICTユニットの特徴】

- 1) 普段のスマートフォンやタブレット※)を活用した音声通話とデータ通信を提供(直径約100m範囲)
- 2) 衛星回線・光ファイバ等との接続により、遠隔地との発着信が可能
- 3) アタッシュケースで持ち運び可能。配線等が容易で10分以内に利用開始可能
梱包のバッテリー1本(22,000mAh)で連続8時間使用可

※) ICTユニットから音声通話用のスマートフォンアプリをダウンロードし、起動することにより、スマートフォンの電話番号をICTユニット内の通信での内線番号として利用可能。

ICTユニットの利用方法(ネットワーク構成例)



外線利用

内線利用

避難所、庁舎、拠点病院等

ひかり電話オフィスA(エース)ルータ
(オプション)

光ファイバ

アナログ電話

アナログ電話用
VoIPゲートウェイ

スイッチ

ユニット本体

Wi-Fi
アクセスポイント

Wi-Fiアクセスポイント拡張
(オプション)

L2-SW (PoE)

AP
廊下など

バッテリー

バッテリー

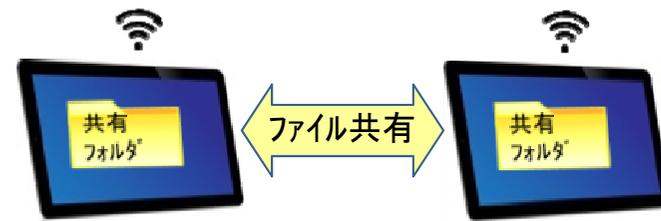
電源線

USB給電

LAN

スマートフォン

衛星携帯電話
(オプション)



PC

PC

ICTユニットの利用方法(端末操作)

通話機能

ファイル共有機能

1. アプリ一覧からアイコンをタップ



①Wi-Fi自動接続

2. 自動で接続や必要な設定等を実施(①~③)

③SIP phone接続自動設定



3. ステータスバーにアイコンが表示されれば
普段の発信操作で通話可能



Android端末



②端末番号、自動登録



ICTユニットのファイル共有サーバにアクセスすることでデータの共有が可能(接続する全ての端末と共有可能)



Wi-Fi
アクセス
ポイント

通話



i-phoneにも対応
(アプリ「AGEphone」を使用)

【Windows
パソコン】
追加ソフト不要



データ共有



【Android端末】
ファイル管理用のアプリが必要
(例:「ES File Explorer」等)